

# 手話体験

講師：聴覚障害のある方  
手話通訳ボランティアなど

## 目的

聴覚障害のある方の生活を知る。  
コミュニケーション手段の1つである手話を体験する。

## 時間

2時間（40名位まで）

## 準備物

手話学習用の資料等

## 導入・事前学習

「耳が聞こえないってどんなこと？」

◎もし自分の耳が聞こえないとして、伝えたいことがある時、どうやって伝えますか（言葉を使わないしりとり、などのワークショップも）

◎聞こえないと何が困るか想像してみましょう

ex. 病院へ行った時、道に迷った時、朝起きる時、災害が発生した時

## 講話

聴覚障害のある方による講話（手話通訳ボランティアが通訳）

## 体験

① 聴覚障害のある人へ言葉や気持ちを伝える時

- \*口を大きく開いてゆっくり話す（口話） 口の動きを見て読むことができる
- \*手のひらや紙に字を書いて読みあう（筆談）
- \*手や体や表情を使って言葉や気持ちを伝える（手話）
- \*メールや FAX
- \*空中に字を書く（空書）

② 簡単な日常会話を手話であらわしてみよう

- \* 自分の名前
- \* あいさつ
- \* 名古屋や学校に関するもの
- \* 家族
- \* その他数字や色など身近なもの

③ ◎手話を使って歌ってみよう（手話コーラス）

誰もが知っている曲をみんなで練習し、最後に通して手話コーラスをする

- ◎手話を使ったゲーム（ビンゴ、色オニなど）
- ◎手話を使って聴覚障害者の方と話してみよう

### まとめ

- 感想を出し合う
- 手話を使った発表

### 発展

～調べてみよう～

- ◎街の中では聴覚障害のある人へどんな工夫がされているだろうか  
ex. 福祉用具、電光掲示板など
- ◎すべての聴覚障害のある人が手話を使っているのだろうか
- ◎聴覚障害のある人はいつ、どうやって手話を学ぶのだろうか
- ◎区内にある手話サークルや聴覚障害のある人との交流の場など
- ◎聴覚言語障害者情報文化センターなどの見学

～考えてみよう～

- ◎他にどんなものがあたらいいだろうか
- ◎災害が起こった時、聴覚障害のある人が困ることはどんなことだろうか
- ◎自分たちにできることは何だろうか

～学習を続けていこう～

- ◎手話を継続して学習していく

限られた授業時間の中では手話そのものの技術を習得することは難しいかも知れません。それよりも手話を完全に知っていなくても聴覚障害のある方と意思疎通ができることを理解する方が大切なのではないでしょうか。またせっかく手話の技術を覚えても、日常的に手話を使っている聴覚障害のある方との交流に役立たなければ意味がありません。何のために手話を体験するのかをはっきりさせ、本格的に手話の技術を学ぶのであれば体験後に継続して学ぶという方法もあります。